

第十番

10 相楽 法泉寺

万治年間（一六五八～一六六二）、僧賢盛が開基し、明治に近くの専教寺や地藏院が統合して現在に至ると伝わります。本尊の十一面観音は平安時代の作ですが、本来どの寺にあったかは不明です。昭和三八年に裏山の火災で避難した際に破損し、一時京都国立博物館に寄託されていましたが御厨子の修理を終えて今は戻っておられます。この本堂は社寺建築で有名な西岡常一棟梁が手がけたものです。なお、高台にある寺境内からは東方に木津から奈良一帯の、四季折々の素晴らしい眺めを望めます。



きよくすむ のりの
いづみのてらにきて
よのすがなかと
なにかおもわん

非公開



©木津川市教育委員会

【十一面観音立像】

東向きの観音さんとして親しまれている本尊の十一面観音立像は平安時代の作で重要文化財です。

平安時代 木造 86cm 重文



10 蓮華山 法泉寺

電 0774-72-8905

住 木津川市木津相楽オノ神43

時 9:00～17:00 駐 10台

アクセス ■近鉄山田川駅から徒歩約15分
■近鉄高の原駅から徒歩約20分
■JR西木津駅から徒歩約20分

第十二番

12 南庄 願成寺

廃寺



【継承寺院】蓮台寺

昔「南庄」とよばれた南稻八妻の一隅に願成寺がありましたが、明治七年廃寺となり、近くの蓮台寺へ合併されました。その際に、観音像をはじめ、薬師堂や諸什物が移されました。願成寺は、明応二年（一四九三）に、山城国一揆の最後の砦となった稲屋妻城が攻め滅ばされた際、討ち死にした人々の供養のために建立されたと伝わっています。



予約公開

いづまや ふる
あめまでも此むらの
ねがひのまの
てらをたあしに

●【聖観音立像】

頭体幹部を針葉樹材の一材から彫出しています。頭頂部や膝から下の脚部、両体側部など後補部が多いものの、頭体幹部は平安時代の当初の造形を残します。

平安時代 木造 106.1cm 京都府暫定登録文化財

12 松雲山 蓮台寺

電 0774-94-2014 【お寺の拝観は要予約】

住 精華町大字南稻八妻小字政ヶ谷132 時 予約の上

アクセス ■JR祝園駅、近鉄新祝園駅から徒歩約20分
■精華くるりんバスで「南庄」下車、徒歩約2分
■奈良交通バスで「精華町役場東」または「植田・南稻八妻」下車、徒歩約10分

第十五番

15 僧坊鞍岡山 神宮寺

廃寺

【継承寺院】若王寺

鞍岡神社の階段を上り詰めた右手の手前の森に少し平らな部分があり、そこに明治の初期まで鞍岡神社の神宮寺がありました。現在、若王寺に、鞍岡神社神宮寺のものといわれる十一面観音坐像と神宮寺の銘が刻まれた石塔の台石が残されています。

一すじに ふたよの
ことも いのりおく
くらをかやまに
のぼりけるかな

予約公開



●【十一面観音坐像】

大師堂にある十一面観音坐像は大ききから井手の橋講の南山城巡礼記に「御たけ八寸」と記された鞍岡神社神宮寺のものと推測されます。

時代不詳 木造 24cm

第十六番

16 下狗僧坊 若王寺



予約公開



寺伝によると行基の建立といわれています。また別に、この地に貞観三年（八六一）に智証大師円珍が開いた円満院があり、当寺はそれに関連する寺院であったとも伝えられています。その後、僧経空慈典が京都・禅林寺（永観堂）から梵鐘を譲り受け、当寺を復興しました。

●【千手観音立像】

本尊として智証大師坐像（重要文化財）が安置されている若王寺の大師堂に千手観音立像があります。

しるべある ときに
まかせて しもつこま
わかきもおひも
十こへひとこみ

15 16 鞍岡山 若王寺

電 0774-94-4055 【お寺の拝観は要予約】

住 精華町大字下狗小字林前9 時 10:00～16:00

アクセス ■JR下狗駅、近鉄柏田駅から徒歩約6分

17 菱田 長福寺

【継承寺院】西方寺



廃寺

真言宗長福寺は、村の東方にあり、百四十四坪の境内を有していましたが、今は廃寺となっています。長福寺の本尊や什物を引き継いだ近くの西方寺に、天保八年の版木が残っています。そこには「本尊は十一面観音で、一千余年を経るが、文政十三年出火、本堂客殿共に焼失、本堂再建が自力では困難ゆえ、助力を希う」とあり、もう片面には観音堂と観音像が刻まれました。古来、安産の仏として信仰があつたというこの十一面観音は、西方寺の観音堂に安置されています。昔、開扉すると眼がつぶれる、と秘伝であつたのは、玉眼で眼光の鋭いせいだったのだらうといわれています。

みちとひし たのをも
すきて いそてしに
とくのりのみを
みるぞたうとき

17 迎接山 西方寺

電 0774-94-3712

【お寺の拝観は要予約・観音様非公開】

住 精華町大字菱田小字西ノ口21

アクセス ■JR下狛駅、近鉄狛田駅から徒歩約5分

18 宮ノ口 観音堂

【継承寺院】法雲寺

廃寺



観音像は、白山神社境内にあった法雲寺（廃寺）に安置されていましたが、明治の廃仏毀釈を逃れるため近くの西念寺（現法雲寺）に移されました。一時修理・調査のため、京都国立博物館に預けられていました。修理の際、台座蓮弁の五枚に墨書で描かれた戯画が発見され、平安絵画研究の貴重な資料として話題になったといえます。その後地元

に戻すことが決まり、本堂を建て替え、平成二十七年に戻ってきました。

非公開

19 江津宮 恵日寺

【継承寺院】壽寶寺

廃寺



御朱印

※継承寺院の御朱印です

めぐむ日の てらす
山もと たづねえつ
ほのくあけの
たまがきも みゆ

【十一面千手千眼観音立像】

十一面をいただく千手観音立像で、左右に各五百の手を持ち、持ち物のない手には、墨で目が記されている。葛井寺・唐招提寺の千手観音と共に、実際に千本以上の手がある3大名作とされています。

平安時代 木造 181cm 重文

恵日寺は今現在廃寺になっており、佐牙神社の階段の所にかつて恵日寺があつたことを示す立て札があります。恵日寺は、佐牙神社の神宮寺であつたと考えられています。また、恵日寺には、かつて五大明王像もあり、今現在二体が壽寶寺に残り三体が近くの正福寺に安置されています。継承寺院の壽寶寺は、文武天皇慶雲元年（七〇四）に創建したと伝えられています。古くは「山本の太寺」といい、七堂伽藍を備えていましたが、度重なる木津川の洪水により、移転を繰り返しました。享保一十七年（七三二）に現在地に移転し、明治初めに近隣の寺々と合併しました。壽寶寺の本尊、眉目秀麗な長身の十一面千手千眼観音立像は重要文化財に指定されています。



◀【十一面観音立像】

頭体の幹部を針葉樹（カヤ）材で彫出し、両耳の位置で前後に割刳ぎ、内刳り。頸部下で割首。現在ほとんど素地を呈しているが、もとは彩色仕上げで下半身の着衣部に花丸文が残っています。

18 日向山 法雲寺

住 京田辺市宮津白山5

アクセス ■JR下狛駅、近鉄宮津駅から徒歩約20分

豆知識 / 戯画（ギガ）

戯れに描いた絵。また、誇張したり風刺を交えたりして描いたこっけいな絵。

平安時代 木造 178cm 府指定

19 開運山 壽寶寺

電 0774-65-3422 【お寺の拝観は要予約】

料 300円

住 京田辺市三山木塔ノ島20

時 9:00~17:00

駐 数台（公民館前）

アクセス ■JR三山木駅、近鉄三山木駅から徒歩約7分

21

普賢寺

大御堂観音寺



かみといゝ ぼとけと
いひて へだてなまゝ
こゝろひとつに
あふぎてもみん

天武天皇の勅願により義淵僧正が創建。その後、聖武天皇の御願により良弁僧正が伽藍を増築し、息長山普賢教法寺と号し、十一面観音立像を安置したといわれています。法相・三論・華嚴の三宗を兼ね、七堂伽藍は壮麗を極めて「筒城の大寺」と呼ばれた大寺院であったと伝えられています。幾度となく火災に見舞われ、永享九年（一四三七）の火事では、諸堂13、僧坊20余りを数えた建物のほとんどが失われ、大御堂だけが再建され現在に至っています。現在は本堂と庭園が周囲の里山と調和し、美しい姿を見せており、春には参道の桜並木や一面に広がる菜の花が、秋には紅葉が一際目を引きまします。

21 大御堂観音寺

電 0774-62-0668 料 400円

住 京田辺市普賢寺下大門13

駐 10台以上(無料) 時 9:00~17:00

アクセス

■JR三山木駅、近鉄三山木駅から
奈良交通バスで「普賢寺」下車、徒歩約5分



豆知識/割矧ぎ造

割矧ぎ造(わりはぎづくり)

木彫の造像技法の一種。一木(いちぼく)からある程度彫り出した像に鑿(のみ)を入れて前後または左右に木目に沿って割り、寄木(よせぎ)造と同程度の内割(うちぐり)を施してからふたたびこれを矧ぎ合わせて仕上げをした像で、単なる一木造よりずっと大きな内割ができ、芯(しん)も除け、重量も軽くなります。

豆知識/手は1,000本あるの？

仏教で使われる「千」という数字は「限りなく多くの」という意味で使われることがあり、この千の手は、あらゆる方法で人々を救う千手観音菩薩の慈悲の象徴です。多くの千手観音菩薩像の手は42本です。合掌した手が2本と左右20本ずつの合計42本です。正しい名前は千手千眼観自在菩薩です。

豆知識/一木式木心乾漆造・漆箔

一木式木心乾漆造(いちぼくしきもくしんかんしつづくり)とは、大まかな木彫像の原型を作り、その原型に漆と木屑漆(こくそうし)を盛り上げて細部整形し、像を完成させる技法です。漆箔(しっぱく)とは、下地の上に漆を塗り金箔で表面を加工しています。

【十一面観音立像】

天平仏を代表する仏像で、昭和28年国宝指定。天平16年(744)良弁僧正開基時の仏像。一木式木心乾漆造、漆箔仕上げ。国宝を間近で拝むことができるのは圧巻。

「普賢寺谷に天平の御仏災厄を乗りこえ国宝に」

奈良時代 木心乾漆造 183cm 国宝

22

興戸

観音寺

廃寺

【継承寺院】

光照寺

非公開



うるほひの あめを
おこしてとぼそには
あらさわがぬ
もりのうちかな

【聖観音立像】▶

頭体を一材から彫出する一木造で、現状では肉身部金泥、着衣部彩色。一木造ながら重厚感はなく、面相を見ると細められた目、小振りの鼻・口などから穏やかで優しい表情を読みとることができます。

平安時代 木造 71.1cm



酒屋神社の境内には、酒造神を祀るという本殿や末社が点在しますが、明治九年までは、神宮寺として観音寺も東北の隅にあったといえます。（『興戸の歴史』）しかし廃寺跡は確定できていません。「観音寺の什宝は、光照寺と寿命寺に振り分けて引き継がれた」とのいい伝えがあり、光照寺の収蔵庫には、「御長二尺一寸」の聖観音が安置されています。

22 青松山 光照寺

☎ 0774-62-2336 (寿命寺) 【お寺の拝観は要予約】

🏠 京田辺市興戸御垣内68 (寿命寺)

📍 京田辺市興戸南鋒立119番地 (光照寺) 駐 無し

🚶 アクセス ■ JR同志社前駅、近鉄興戸駅から徒歩約10分

豆知識 / 1尺とは、1寸とは

1尺=30.3cm 1寸=3.0303cm

23

北谷

日光寺

廃寺

縁起によれば、神亀元年（七二四）行基菩薩が当地に巡錫されたのを機に、聖観音を本尊として日光寺を建立しました。しかし元和二年（一六一六）に堂宇の焼失に遭いました。その後、法智上人がこの地に草庵をかまえ浄土宗に改宗し、念仏弘道の道場として隆盛しました。寛永三年（一六二六）村民の寄付により観音堂を建立し、本尊観音菩薩を安置しましたが再び堂宇が焼失し

ました。享保四年開普上人代に当地の住人代官浅井正隆氏の寄進により再建、多くの参詣者を集めました。昭和三十六年の室戸台風により、二〇〇年以上続いた本堂は全壊、庫裡も半壊しました。その後、以前よりかなり縮小となり、再建されたのが現在の日光寺です。



非公開



【聖観音坐像】

本像については「日光寺略縁起」に「本尊聖観世音菩薩者行基菩薩一刀三札の御直作也・云々」とあります。

室町時代 木造 33.9cm

23 普門山 日光寺

🏠 京田辺市三山木天神山

24

飯岡

蓮華寺

廃寺

【継承寺院】

阿弥陀寺



予約公開

飯岡に登ると、茶園の隅に「蓮華寺遺跡」と刻まれた碑が立ち、そばには七井の一つが残っています。

飯岡は古墳群、穴山梅雪の墓、七井等、歴史にみちた土地です。

明治八年、境内四百六坪檀家二十軒の蓮華寺を壽寶寺へ合併したいとの願いが出され受理されました。（『田辺町近世近代資料集』）現在壽寶寺に安置されている聖徳太子像と阿弥陀寺本堂の十一面観音像は蓮華寺から受け継いだものと伝わっています。

これぞこの ついの
むかへと いひのをか
はちすのはなの
てらにのぼりて



【十一面観音立像】▶

室町時代 36.8cm

24 光明山 阿弥陀寺

☎ 0774-62-3819

【お寺の拝観は要予約】

🏠 京田辺市飯岡東原11 時 9:00~17:00

📍 飯岡公民館・飯岡区駐車場に駐車可能

🚶 アクセス ■ JR三山木駅、近鉄三山木駅から徒歩約25分